

農山漁村活性化部門



大沢郷三地区結々会

大沢郷地区いきいき里づくり構想
～おらだのまち元気大作戦～

所在地／大仙市



こうした活動が実を結び、20～40代で構成する若者の会「郷音」の組織化や、20年間途絶えていた伝統行事「椒沢番楽」の復活を果たすことができました。



令和元年に、大仙市大沢郷地区の自然や歴史の保全・継承による活性化を目的として、大沢郷宿、杉山田、はつみぎの3集落で設

立しました。

当地区には、豊富な水量を誇る湧水があり、水汲み場や無人直売所を整備することで、週末には多くの利用者が訪れているほか、湧水をワサビ栽培にも活用しています。

また、30年ほど前から受け入れてきた農作業体験を通じて、県内外から人を呼び込むことで、リピーターだけでなく、県内に移住して地域活動に参加する方もいるなど、関係人口の創出にもつながっています。



〔大賞の概要〕

先人が作り上げた美田や農産物、豊富な森林資源などを次の世代に受け継いでいくため、「ふるさと秋田農林水産ビジョン」の目指す姿の実現に向けて、模範となる活動を展開し、顕著な実績を上げている農林漁業者等を表彰するとともに、その取組を広く普及し、魅力ある農林水産業と農村漁村づくりを推進します。

〔各部門の表彰対象〕

産地部門

産地の特徴を活かし、積極的な産地拡大に取り組む農業者等で組織する集団

担い手部門

【経営体の部】

農業・漁業経営で優良な実績を上げ、地域のモデルとなる個人や法人等

【未来を切り拓く新規就農の部】

地域の担い手として、活躍が見込まれる新規就農者や農外からの参入者等

農山漁村活性化部門

6次産業化、食育、直売活動、耕作放棄地活用、グリーン・ツーリズム等、地域を活性化する活動を行っている法人、集落、集団等

令和6年度

ふるさと秋田 農林水産大賞

Congratulations

受賞者の紹介

産地部門

北秋田・大館地域にんにく生産振興協議会
(北秋田市、大館市／農林水産大賞)

担い手部門

【経営体の部】

農事組合法人小出ファーム
(にかほ市／農林水産大臣賞・農林水産大賞)

沼沢 淳

(横手市／農林水産大賞)

【未来を切り拓く新規就農の部】

島 知範

(能代市／農林水産大賞)

農山漁村活性化部門

大沢郷三地区結々会

(大仙市／農林水産大臣賞・農林水産大賞)

秋田県

産地部門



北秋田・大館地域にんにく生産振興協議会

「土力品質」にこだわったにんにく産地づくり

所在地／北秋田市、大館市
品目／にんにく42ha
構成戸数／7経営体



平成29年に、北秋田地域におけるにんにくの生産拡大と品質向上を図るため、地域の農業法人で協議会を設立し、「あきたしらかみにんにく®」の統一ブランドで出荷・販売する体制を整えました。

「美味しいにんにくは、健康な根っこから成り立つ」との考えのもと、協議会で「土づくり5箇条」のルールを設け、有機堆肥や十和田石（微生物活性資材）を投入するなど、土にこだわった産地づくりに取り組んでいます。

また、加工・業務用をはじめ、家庭用、加工食品など、幅広いニーズを意識した商品づくりに努めつつ、商談会などで

PRしながら、販路拡大を図っています。多くの皆様から愛される美味しいにんにくをお届けする「土力品質」産地として、今後も生産拡大に取り組めます。

PRしながら、販路拡大を図っています。

多くの皆様から愛される美味しいにんにくをお届けする「土力品質」産地として、今後も生産拡大に取り組めます。



担い手部門 経営体の部



農事組合法人小出ファーム

大規模なアスパラガス半促成栽培で“地域と共に歩む”

所在地／にかほ市
品目／水稲59.7ha、大豆28.9ha、馬鈴薯1.7ha、アスパラガス0.82ha、タラの芽0.6ha
構成戸数／17戸



若者の農業離れが進む中、ほ場整備を契機に、水稲と大豆の共同作業を担っていた畑営農組合を母体として平成28年に法人を設立後、メガ団地等大規模園芸拠点育成事業を活用して半促成アスパラガスを導入し、複合経営に取り組んでいます。

限られた労働力で効率的に営農するため、不耕起V溝乾田直播栽培を導入し、作付面積を拡大しているほか、半促成アスパラガスにトヨタ式カイゼン手法を取り入れ、収穫・粗選別作業の効率化を図っています。

また、地域雇用の受け皿として、夏場における作業時間

の調整など、従業員が働きやすい環境を整えているほか、福祉施設利用者を受け入れるなど、農福連携にも取り組んでいます。

の調整など、従業員が働きやすい環境を整えているほか、福祉施設利用者を受け入れるなど、農福連携にも取り組んでいます。



担い手部門 経営体の部



沼沢 淳

多雪地帯でりんごのわい化栽培に進取果敢に挑戦

所在地／横手市
品目／りんご270a、そば40a、水稲40a



昭和51年に就農後、りんごのわい化栽培に取り組み、自家生産した大苗を転作田へ移植することで早期成園化と高品質化を実現し、規模拡大を図ってきました。

この間、幾多の雪害に見舞われるも、逆境をバネに耐雪性の向上に努め、今なお樹形や樹体支持施設の改良に取り組んでいます。

販売面においては、県オリジナル品種「ゆめあかり」の栽培研究会を設立し、長期冷蔵技術を取り入れた端境期出荷に取り組んでおり、「夏出しりんご“ゆめあかり”」として、都内百貨店から指名買いされるまでになりました。

りんごにこだわり、生産から販売まで進取果敢に挑戦し続ける姿が、若手生産者の刺激にもなっており、優れた技術で産地を牽引しています。



担い手部門 未来を切り拓く新規就農の部



島 知範

稲穂に魅せられて移住、ねぎ栽培に取り組む

所在地／能代市
品目／ねぎ8ha



稲穂に魅せられ、「いつか農業をしたい」との気持ちを実現するため、平成30年に千葉県から移住し、園芸メガ団地の運営法人

での研修を経て、令和2年からねぎ専作で営農を開始しました。

排水対策の励行や土壌分析結果に基づく資材の施用に努めているほか、行政やJAが発信する病害虫対策情報に基づき予防を徹底することで、病害の発生を最小限に抑えるなど、近年の高温条件下でもしっかりと単収を確保しています。

また、夢ある園芸産地創造プラン支援事業などを活用

し、計画的な投資をしているほか、選別・調整作業を全て従業員に任せて自立を促し、自身は生産や経営管理に専念することで、就農5年目にして地域屈指の規模まで生産拡大しています。

